

先生方の おすすめ本

2022.7.19 都立大江戸高校図書館



紹介された本は図書館にあります（★印はこれから入ります）。

高島 由紀子先生（校長）

ぼく モグラ キツネ 馬 E933-7

チャーリー・マッケジー／著

川村元気／訳 飛鳥新社

**疲れて心の栄養が不足したときに、
私が必ず読む本です**

この本には、ぼく、モグラ、キツネ、馬が出てきて、それぞれの対話がかかれてあります。

“いままでにあなたがいったなかで、
いちばんゆうかなことばは？”とぼくがたずねると、
馬はこたえた。

“たすけて”

——心が楽になる栄養剤（＝ことば）がたくさん入っています。
あなたに効く栄養剤が入っていますように——

中島 聡司先生（副校長）

一号線を北上せよ ★ B915.6-サ

沢木耕太郎 講談社（講談社文庫）

**「北上」すべき「一号線」はどこにも
ある。ここにもあるし、あそこにもある。
私にもあれば、そう、あなたにもある**

人生はよく「旅」に例えられます。西行や松尾芭蕉などは、旅の中に生きることを作品として残しています。

旅の中に生きることについて、現代の代表者と言えば「沢木耕太郎」さんがあげられると思います。『深夜特急』という作品でバックパッカーの神髄を書いた沢木耕太郎さんが、人生が旅であることを意識して書いたのが、今回の作品です。

自分の心の中の「一号線」を探してみてください。

長田 学先生（副校長）

しょうぼうじどうしゃ

じぶた ★

渡辺茂男／作 山本忠敬／絵

福音館書店

小さくたって大活躍！ 元気が出る乗り物絵本

最近観たTVの中で、この絵本の紹介がありました。ああ、懐かしいなと、TVを斜め観していましたが、登場してきた人物は幼少の子供でもなくその親御さんでもありませんでした。TVに映し出されて、インタビューに答えているのが働き盛りの大人の男性でした。

意外な展開であったので、TVに見入っていると、当該大人の男性は、自分の職場の居場所探しをしている人でした。この、大人の方は、当該絵本を小さい頃に読んでいましたが、大人になり、今の仕事に悩んでいたとき、改めてこの絵本を読んで元気が出てきたと云っていました。この絵本は、実は大人でも、じゅうぶんに読み味わえる絵本でした。この絵本は、高校生の皆さんだけでなく、大人でも愉しめる絵本です。大人になったときにも、読み直してみてください。

齋藤 隆平先生（国語科）

One World みんなが誰かを

幸せにしているこの世界

喜多川泰 サンマーク出版 913.6-キ

**少年野球、サービスマン、卒業式、バレンタイン、
就活、出稼ぎ、恋愛……。**

さまざまな「縁」をつなげる長編小説。

「誰かが好きなこと一生懸命頑張る姿っていうのは、そいつが夢を実現したかどうか以上に、周りの人の心に影響を与えるんだ。」

「自分にできることを増やしたり深めたりする努力を続けること。そして、幸せにできる人の数を一人でもいいから増やそうと努力することだ。それこそがまさに仕事の醍醐味と言える。」

短編集のように見えて、つながりを持った一つの長編であり、私たちの人生そのものを表しています。それぞれの人生は、他者の人生と切り離すことができない縁でつながっていて、普段の生活というのは深さに関係なく、必ず誰かと繋がっている。そんなことを実感させてくれる一冊になっています。

<p>齋藤 隆平先生 (国語科)</p> <p><u>毎日が楽しくなる17の物語</u></p> <p>志賀内泰弘 PHP研究所</p> <p><u>「いいこと探し」の名人が見つけた、心が震えるエピソード。</u></p> <p><u>人生に、仕事に、学校生活に効果あり!</u></p> <p>「人からもらった恩を、その人に返さずに順繰りに回していくことを『恩送り』と呼ぶそうです。人からの好意は素直に受ける、そして、それを恩送りしていくことで誰もが住みやすい社会になることでしょう。」</p> <p>見返りを求めずにとにかく相手のことを思って行動する。なかなか簡単にできることではないけれど、少しでも実践してみようかなと思わせてくれる本です。</p> <p>コース料理のような短編集になっているので、あまり時間が無くても少しずつ楽しむことができます。心に余裕がなくなったときや、落ち込んだ時にぜひ読んでほしい一冊です。</p> <p>(※この本は本校図書館にはありません)</p>	<p>岡村 順子先生 (国語科)</p> <p><u>東京バンドワゴン</u></p> <p><u>(シリーズ)</u> 913.6-9</p> <p>小路幸也 集英社</p> <p><u>大河小説とも言えるが、</u></p> <p><u>気楽に読めて、心にじんわり染みる!</u></p> <p>下町の古本屋「東京バンドワゴン」が舞台。堀田家の個性的な人々が繰り広げる様々なストーリーを、故人となったおばあちゃんが天国から優しく語りかける。2006年に発表されて以来、この家族(&家族に関わる人々)が繰り広げる新たな展開が「シー・ラブズ・ユー」「スタンド・バイ・ミー」「マイ・ブルー・ヘブン」等次々と書き続けられ、今年も「ハロー・グッド・バイ」が出版された。(なんと第17作目!)</p> <p>第1作から読んでもいいし、タイトルが気に入ったもの(タイトルはすべてビートルズのナンバー)を単体で読んでも、十分に楽しめる。</p>
<p>小林 泰斗先生 (地歴公民科)</p> <p><u>十五少年漂流記</u> B953-ガ</p> <p>ジュール・ヴェルヌ</p> <p>集英社(集英社文庫)</p> <p><u>少年たちの無人島冒険ストーリー!</u></p> <p><u>大人になる前に読んでほしい一冊!</u></p> <p>ひよんなことから無人島に漂着した15人の少年たちが、いつくるのか分からない助けを信じつつ、自分たちで力を合わせて生き抜いていく大冒険ストーリー。学校ではなく無人島で生活した少年たちは、人間として成長できたのか?</p> <p>ラストのナレーションの言葉が子ども心をくすぐるような、大人になる前にぜひ読んでほしい一冊です!</p>	<p>^{ンクナ ムトリシ}Nkuna Mthulisi先生 (英語科)</p> <p><u>Solving Mathematical Problems :</u></p> <p><u>A personal perspective</u></p> <p>Terence Tao Oxford University Press</p> <p><u>There are a handful of really wonderful books that can introduce a young high-school student to the beauty of mathematics. —Mihaela Poplicher</u></p> <p>This book is written by the best living mathematician, and is the best book for problem solving.</p> <p>(※この本は本校図書館にはありません)</p>
<p>熊川 雪路先生 (地歴公民科)</p> <p><u>13歳からの地政学</u></p> <p><u>カイゾクとの地球儀航海</u></p> <p>田中孝幸 東洋経済新報社 312-タ</p> <p><u>今は歴史の転換点</u></p> <p><u>~国家や世界を見る目を鍛えよう!</u></p> <p>地政学とは、国の地理的諸条件が、いかに政治・経済・軍事に影響するのかを研究する学問です。真実を知ることの大切さを実感する今だからこそ、この本をお勧めします。</p> <p>ニュースの理解を助け、地理や世界史の授業に興味を持つきっかけにもなります。</p>	<p>熊川 雪路先生 (地歴公民科)</p> <p><u>嘘つきアーニャの真っ赤な真実</u></p> <p>米原万理 角川書店 914.6-3</p> <p><u>「真っ赤な真実」とは何か?</u></p> <p><u>社会主義国に生きた旧友アーニャの波乱万丈の人生とは。</u></p> <p>ロシア語通訳者の米原万里さんが書いたエッセーで、とても読みやすい文章です。著者は1960年代に9歳から14歳までをブラハのソビエト学校で過ごしています。ユーゴスラビアやルーマニアなど社会主義の国々から集まった生徒たちとともに学び、家族ぐるみの交流を深めました。</p> <p>大人になった米原さんが、当時の友人たちを探す旅に出ます。旧友の運命はいかに?</p>

吉岡 大介先生 (商業科)

太平洋戦争下の学校生活 916-1

岡野薫子 平凡社 (平凡社ライブラリー)

高校生のうちに読んでおきたい

「戦時下生活のリアル」

17歳で終戦を迎えた児童文学者の、幼少期から終戦までにかけての回顧録。戦争が少女たちの生活や心を変えていく様を、冷静な文章がとても具体的に伝えてくれる。「戦争が私たちにもたらすもの」について、一度じっくり考えてみませんか。

石井 美菜子先生 (地歴公民科)

室町は今日もハードボイルド

日本中世のアナーキーな世界

清水克行 新潮社 210.4-シ

「日本人は温和」？ いいえ！

私たちのご先祖様は超凶暴でアナーキーだった！

中世といえば武士の時代、戦いの時代。でも、生きていたのは武士だけではありません。中世に生きた日本人がどんな感覚で生きていたのか知りたくはありませんか？

暴力による自力救済は当たり前、罵詈雑言の豊かなボキャブラリー。僧侶は武士を呪い殺し、浮気された妻は相手の女を襲撃し、近所の桶屋の親父には裏社会のドン顔がある——そんな衝撃エピソードがたくさん紹介されています。

「日本史で勉強したけど、いま中世のイメージが掴めない…」

「日本人って昔はどんな生活をしていたの？」

そんな疑問をもつ人たちにぜひ読んでいただきたい一冊です。

きっと、中世に生きた日本人の人間味あふれる姿が見えてきますよ。

角田 聡子先生 (家庭科)

メモの魔力 002-7

前田裕二 (SHOWROOM 社長) 幻冬舎

「こんな魔力があったのか。」と

気づかせてくれる1冊です。

メディアに出ている方の書籍です。皆さんも見かけたことあるかも知れません。大変読みやすくまとめられています。私はコロナ禍で読みました！ネット配信の社長さんが、ペンでメモをひたすらとるというアナログ的思考が気に入り読みました。私もメモ魔なので共感するところも多かったです。特に「言語化で夢は現実になる」「夢について、まず紙に書いた時点で潜在意識に刷り込まれる度合いが高くなる」等の一節は、私が高校時代に「夢」についてひたすら書き、実現した経験があったため読んでいても嬉しくなるところです。よかったら、図書館に置いてありますので是非読んでみてください。

今中 一三先生 (国語科)

金ではなく鉄として

中坊公平 岩波書店

人間中坊公平の原点

謙虚で人付き合いも下手で、劣等生であった著者がどのように、弱気を助け、強気を挫く「弁護士」となったのか。様々な難事件を担当した人間中坊公平の原点を探ろう。

(※この本は本校図書館にはありません)

佐藤 友亮先生 (理科)

マグメル深海水族館 726-λ-1

椋下聖海 新潮社

観察に基づいたすごく美しいイラストと

ともに、いのちを扱う仕事をするとすることは

どういうことなのかを主人公と考える。

深海生物という未知の生物を展示する水族館で働く青年たちが、生物のいのちやお客さんと向き合いながら成長をしていく漫画です。

まず、とにかく生物イラストがキレイ！！これだけでも一読の価値があります！

また、人を含めて「命を預かる仕事」を目指そうとしている人は読むべき漫画であると思います。主人公たちは「飼育」や「漁業」、「料理人」などの自身の職業をいのちに対する自身の考えを持ちながら取り組んでいます。そこから学べるものがたくさんあるのではないかなと思っています。

さらに、知らないことを知る楽しさや感動も再確認できる漫画です！この夏新しい何かを求めている人がいたら、そのモチベーションを高めてくれるのではないかなとおもいますよ！

垣原 沙樹先生 (家庭科)

平安女子はみんな必死で

恋してた：イタリア人が

ハマった日本の古典 910.2-テ

イザベラ・ディオニシオ 淡交社

新しい古典文学の楽しみ方が発見できる一冊

「古典の面白さがよくわからない…でも受験に必要」「和歌って何言っているのか分からないし、時代背景も分からない」という古典に苦手意識のある人にぜひ読んでほしい一冊です。古典は決して遠い時代の意味の分からない話ではありません。いつの時代・どの国でも女は女。そんな風を感じることでできるエッセイです。作者による古文そのものの解釈がカジュアルで堅苦しさをなくあっさり読むことが出来、読めば古典への苦手意識はなくなることでしょう。ぜひ「女心とはなんぞや」と思っている方にも読んでほしいです。

川井 あずさ先生 (国語科)

モダンタイムス 913.6-1

伊坂幸太郎 講談社

「人は知らないものにぶつかった時、
何をするか?」「検索するんだよ」

恐妻家のシステムエンジニア・渡辺拓海が請け負った仕事は、ある出会い系サイトの仕様変更だった。しかしそのプログラムには不明な点が多く、発注元すら分からない。そんな中、プロジェクトメンバーの上司や同僚のもとを次々に不幸が襲う。彼らにはある共通点があった…。

元SEの筆者が描く社会派小説。自分に置き換えてゾッとすることもあり、「肉ピック」「爪はまた生えてくるんだ。人道的だろ」など、伊坂幸太郎らしいウィットに富んだ表現も多くあり、上下巻の長さも気にならず、どんどん読めます。前作「魔王」と共に、おススメです。

岡田 千加先生 (英語科)

青春文学アンソロジー

心に風が吹いてくる 902-1

高山実佐ほか／編 三省堂

若者に読んでほしい青春文学の傑作を少しずつ
読める 初めての一冊に!

色々な青春文学が一部抜粋されて紹介されている本です。作品だけでなく、著者の先生方の解説やコメント、紹介文、コラムなども掲載されています。

一冊読んだだけで、何冊も本を読んだ気分になれる。題名だけ知っていて、手に取りたかった本がたくさんあるけどなかなか踏み出せない。この本で少し読んでみることで続きを読もうと背中を押してもらえると一冊になると思います。

読書初心者にもおすすめです。

大野 潤治先生 (国語科)

パンク侍、斬られて候 B913.6-7

町田康 角川書店 (角川文庫)

くだらないけど面白い

よい小説というのは、大抵は俗世間から隔てられた崇高なテーマや教養豊かな文体といった、いわゆる体裁のよさを持ち合わせているものである。羅生門では善悪の間で煩悶する青年、山月記では中島敦の漢学の素養豊かな文体などがそうである。それがおおよそ読者には到底身につかない高級な表現であっても、読後に読者を何となく賢くなった気にさせる。一方で町田康の作品にはそのような体裁が整っていない。「青年の煩悶」というよりは「マスクをせずしたり顔で往来を歩くおっさん」のような卑小な話題がそこかしこに書き散らかしてあるような印象を受ける。こういうものは書く側としても恥ずかしいものである。なぜなら、大抵は身内受け狙いのようなつまらなさに墮するのが関の山だからである。さらには、「おいらは世間の同調圧力とやらには屈しねえよ。」といった社会への反感という体裁が整ってしまっている点も、表面上体裁のよさを軽視しているだけにより一層恥ずかしい。しかし、町田康の小説は強烈に面白いのである。理由としては、もちろん町田氏の文才が挙げられるだろうが、それ以外でとなると恐らく本人の小説を書く目的にあるのではなからうか。それは読み手の評価や社会への啓蒙などといった意識が微塵もなく、ただ自分に書ける、書きたいことを自由に書き続き続けているからかもしれない。その結果、読者は全力で走りながらカツ丼を頬張っているような不毛な快感に襲われるのである。実際、今回紹介する「パンク侍、斬られて候」は江戸時代を舞台にした時代小説だが、ボブ・マーリーや夏目漱石が出てくるといった不合理的な挙げれば枚挙にいとまがない。にもかかわらず面白さが勝りそんなものはどうでもよくなっていく。体裁の整わないよい小説というものにまだ触れたことのない人は、ぜひ一度読んでほしい。

豊田 基裕 先生 (地歴公民科)

歴史修正主義～ヒトラー賛美、

ホロコースト否定論から

法規制まで 230-9

武井彩佳 中央公論新社 (中公新書)

「正しい」歴史は真実?

なんらかの意図で歴史を書き換えようとする考えを「歴史修正主義」といいます。例えば、アメリカなどで一定の支持を集めている「陰謀論」もその一つです。この本ではユダヤ人の大量虐殺であるホロコーストはなかったとする考え方はどのように発生し流布してきたのかを解説し、学術的な検証を経た見直しとどこが違うのか、世界にどのような害を与えるかを論じます。著者は、歴史修正主義は過去を修正しつつ現在・未来を正当化する「歴史の政治利用」であって、論破されても繰り返す主張することで、人々に疑念の種を植え付ける点を問題視します。

ヨーロッパの話がメインであり世界史の知識があった方が理解しやすい面はありますが、日本の歴史認識問題にもあてはめることができ、歴史教員である私にとって大変多くのことを考えさせられました。ネット上でコミュニケーションや情報収集をするようになった私たちに、立ち止まって、自分のものの見方(イメージや印象)・考え方の根拠や情報源はどこにあるのか考えることの大切さを教えてください。

宇井 一輝先生 (家庭科)

The Catcher in the Rye

(ライ麦畑でつかまえて)

J.D.サリンジャー 白水社 933-サ

元祖・中二病

小学生で父からプレゼントされるも、意味がわからず、中学生で憧れのセンパイから勧められるも、またも意味がわからず、高校生で何となく“カッコつけて洋書を”と思って読み、どハマりした。

青春時代のもどかしさに、私はとても共感しました。

生徒におすすめかと聞かれると…「？」ですが、思い出の本です。